

みなみいなごえいせき
2. 南稲越遺跡

所在地:あわら市稲越
調査原因:北陸新幹線建設事業
調査期間:平成27年11月2日～12月28日
調査主体:福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
調査面積:550㎡
時代:弥生後期～古墳前期



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 南稲越遺跡は竹田川の左岸に立地しています。過去に旧金津町が町道改良工事に伴って平成5年に交差点部分の調査を行い、あわら市が高間川の河川整備事業に伴って平成16～17年に発掘調査を実施しました。



第1図 調査区

その結果、今からおよそ1700年前、弥生時代後期～古墳時代前期ごろのムラが良好な状態で残っていることが明らかになりました。ムラは遺跡の西側の伊井遺跡のことも含めて考えると、玉作りも行っていたようです。

水田の表土を除いた後、調査を始めると、弥生時代後期～古墳時代前期の土器を含んだ厚さ30cmの黒い土の層を確認しました。これを除くと、黄褐色土の面になり、柱や溝を確認しました。

主な遺構は弥生時代後期～古墳時代前期の掘立柱建物1棟(SB2:桁行3間×梁行2間)、土坑(土器を捨てた穴)4基(SK1～4)です。

特に土坑SK4に注目すると、古墳時代前期の多様な器種を多く含んでおり、近畿地方や東海地方の影響を受けた土器と、福井の土器と一緒に捨てられていました。これらは遺跡の時期やムラのありようを考える上で、貴重な成果と言えます。

まとめ これまでの調査成果から、竹田川左岸の自然堤防上には未知の遺跡が良好な状態で展開していると言えそうです。今後の調査で新資料を検討すれば、より鮮明にムラの姿をとらえることができるのではないかと考えています。(鈴木篤英)



写真1 調査区全体(南から)



写真2 建物 SB2(南から)



写真3 土坑 SK2(南から)



写真4 土坑 SK4(南西から)